

生物多様性とは・・・

今年の10月、生物多様性を守るため、世界中の約190カ国が愛知県名古屋市に集まって、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されます。あわせて国連は本年2010年を国際生物多様性年と定め、世界の生物多様性の重要性の認知を高めています。

普段、あまり聞きなれない「生物多様性」という言葉ですが、実は私たちの毎日の生活と密接に関わり合っています。南長崎でミツバチプロジェクトを展開する鹿島建設は、他社に先駆け鹿島生物多様性行動指針を策定し、生物多様性の重要性を示すなど、その保全に積極的に取り組んでいます。そこで、中心的な役割を担っている山田順之次長に「生物多様性」について、わかりやすく解説していただきます。

鹿島建設の考えるあらゆる生物が安全で快適に暮らせる街づくりを紹介

「いきものにぎわうまち」のHP

<http://www.kajima.co.jp/gallery/biodiversity/index-j.html>

鹿島建設株式会社 環境本部地球環境室

(港区赤坂6-5-11)

次長／山田 順之さん



生物多様性ってなに？



「生物多様性」という言葉をみなさんご存知でしょうか？ 今年の10月には名古屋で生物多様性条約締約国会議（COP10）が開催されるため、最近新聞やニュースでも紹介される機会が増えてきました。

この生物多様性とは、地球上の生物がバラエティに富んでいること、複雑で多様な生態系そのものを示す言葉です。ではなぜ多様性が必要なのでしょう？たとえ、ある虫が絶滅したとします。するとそれを食べていた小鳥が生きていけなくなり、その小鳥を餌としていた猛禽類がいなくなってしまうでしょう。虫の死骸や鳥の糞を栄養としていた植物も失われるかもしれません。このような食物連鎖の関係に加え、虫が植物の受粉を助けるなど全ての生き物は互いに支えあい、つながりあって生きています。

ところが、地球上の生物種は急激な勢いで減少しています（グラフ参照）。これは飛んでいる飛行機のビスが抜けるのと同じ事だと指摘されています。ビスの1本2本が抜けたところで飛行にはあまり影響がありません。

ところがそれを放置すると徐々にその周りのビスが緩みだし、最終的には墜落してしまいます。いまの地球の状況はビスが抜け続けているこの飛行機と同じです。

私たち人間も生物界の大きなつながりの中で生きています。生物多様性に富む豊かな自然環境を次世代に残せるように、我々自身がこの問題について考えることが重要ではないでしょうか。

絶滅した生物種の数

